

平成16年3月期 決算見通しについて
(四半期業績の概況の開示)

当社の第151期(平成16年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。なお、これは、(株)東京証券取引所の定める適時開示規則に基づく四半期業績の概況の開示も兼ねて行なうものです。

(1) 連結決算見通し

当上半期のわが国経済は、国内の一部業種における設備投資に回復傾向がみられることに加え、株価の回復などを背景に個人消費にも持ち直しの動きが出るなど、景気は弱いながらも回復の兆しが見え始めました。

このような状況の中、国内の鋼材需要については、旺盛な外需や設備投資の持ち直しを背景に製造業向けを中心に堅調に推移しており、海外についても中国向けを始め引き続き高水準で推移しております。このような状況から、鋼材販売数量の増加や販売価格の改善が見込まれるため、鉄鋼関連事業の業績は前回見通しを上回る見通しです。

また、建設機械関連事業においては、中国市場での需要が拡大を続けていることに加え、国内についても油圧ショベルを中心に新車需要が回復傾向に転じたことから、販売台数が前回見通しを上回る見込みとなるなど、鉄鋼関連事業以外の事業についても概ね堅調に推移しました。

これらの結果、当上半期の売上高については、前回見通しに比べて100億円増収の5,900億円程度となる見込みです。また、損益についても、経常損益は前回見通しから20億円増益の140億円程度となり、当期損益についても、前回見通しに比べて40億円増益の70億円程度となる見通しです。

下半期については、米国経済の回復機運や株価上昇を背景に、設備投資や個人消費に持ち直しの傾向が見られるなど、先行きの不透明感は薄らぎつつあるものの、本格的な景気回復には至らないものと見込まれます。

このような状況の中、通期の業績見通しについては、売上高は、前回見通しに比べて100億円増収の12,000億円程度となる見込みですが、経常損益については、下半期の景気動向が見通しにくい状況であることを踏まえ、前回見通し並みの430億円程度としております。一方、当期損益は特別損益の好転などが見込まれることから、前回見通しに比べて60億円増益の200億円程度となる見通しであります。

【連結決算見通し】

(億円)

		売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	当中間期	5,900	140	70
	通 期	12,000	430	200
前回見通し	当中間期	5,800	120	30
	通 期	11,900	430	140
前 期 実 績		12,047	354	17

(2) 単独決算見通し

当上半期の売上高については、前回見通しに比べて100億円増収の3,900億円程度となる見通しです。また損益については、経常損益は前回見通し並みの70億円程度となる見通しですが、当期損益は特別損益が改善することなどから前回見通しに比べて10億円増益の40億円程度となる見通しであります。

通期の見通しについては、売上高は、前回見通しに比べて100億円増収の7,800億円程度となる見通しです。また、損益については、連結決算同様、経常損益は前回見通し並みの230億円程度としておりますが、当期損益は前回見通しに比べて40億円増益の150億円程度となる見通しであります。

【単独決算見通し】

(億円)

		売上高	経常損益	当期損益
今回見通し	当中間期	3,900	70	40
	通 期	7,800	230	150
前回見通し	当中間期	3,800	70	30
	通 期	7,700	230	110
前 期 実 績		8,072	202	48

〔中間配当について〕

中間配当につきましては、本日の取締役会において、誠に遺憾ながら実施を見送らせていただくことといたしましたので、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

以 上